「思慮深く考える」

ローマ１２：３

堀田修一　２４・６・１６

「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人ひとりに言います。思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く考えなさい」：３。

Ⅰ　基本的な考え方の中でもこの 3 節は原理です。「慎み深く考えなさい」を原語で直訳すると「思慮深く考えなさい」という言葉です。ここにも「考えなさい」という言葉が出てきます。2 節で言われた「心（原語：思い、考え方、分別、理解力）」をご聖霊とみことばで健全に新しくされ続けることが、いかに大切かが分かります。この「思慮深い考え方」を私たちが持つために、二つの事に注意する必要がある。

１．ひとつは「思うべき限度を超えて思い上がる」高慢です。自分にとって分を超えた働きや賜物を欲しがる貪り（モーセの十戒の十番目の戒め「隣人のものを欲してはならない（貪ってはならない）」出２０：１７。自分が今、神から与えられている賜物、能力や今、自分がしている働きを、事実以上に大事なものと買いかぶり、自分のこの働きがなければ教会はやっていけないという「うぬぼれ」。これらが「思うべき限度を超えた」思いです。何かを「してやっている」という思いではなく、欠けの多い自分にも「神がやらせて下さっている」という謙遜と感謝の思いを持ち続けられるように祈りましょう。

２．もうひとつは、逆の思いです。「神が各自に分け与えてくださった」賜物があるという事実を忘れない思いです。多くの人々の祈りと愛の協力で教会は形成されているのに「自分の働きがなければ教会はやっていけない」という思い上がりの反対に「思い下がる（主にある自分の評価を下げ過ぎる）」という自己卑下の思いも間違っています。主の教会に、いてもいなくても良い存在は、ひとりもありません。神は一人一人の存在を喜び愛し教会に加えられています。

Ⅱ　この節の「信仰の量りに応じて」の意味

この「信仰の量り」の「信仰」は、これまで述べられた「主を信じる信仰によって義と認められる」の「信仰」ではありません。「救われる信仰」のことではなく、業を行う上で必要な信仰（主は一人一人に賜物を量り与えておられる事実を信じる信仰）のことです。聖書を正しく解釈する秘訣は、聖書の他の箇所で使われているみことばと照らし合わせて理解することです。この個所は、エペソ４：７を読むと理解が深まります。「私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵み（能力、使命）を与えられました」。本日の箇所の「信仰の量り」とは、「キリストの賜物の量り」のことです。ですから、教会のかしらであるキリストが教会の一人一人に奉仕の賜物を分け与えておられると信じる人は、「思うべき限度を超えて思い上がること」はできません。自分の中に賜物、能力、良いものがあるとしたら、それは神様からのプレゼント

だという感謝の思いだけが出てきますので「思い上がる」ということから守られます。また、「神が各自に分け与えて」おられる事実を信じますから、自己卑下からも守られます。

Ⅲ　健全な思いではなく「思うべき限度を超えて思い上がる人への神の戒め」と「自分なんかいなくてもよいと自己卑下をする人への神のみことば」。私たちは、人生の中で、状況により、どちらかの罪、過ちを犯します。どちらにも陥らないように目を覚まして祈りましょう。自己卑下と健全な謙遜は違います。

１．慎み深く（原語：健全に）考えず「思い上がる人、高ぶる」私たちへの戒めのみことば

①「しかし、彼が強くなると、その心は高ぶり、ついに身に滅びを招いた。彼は自分の神、主の信頼を裏切った」Ⅱ歴代２６：１６。

②「王はこう言っていた。『この大バビロンは、王の家とするために、また、私の威光を輝かすために、私が私の権力によって建てられたものではないか』…天から声があった。「ネブカドネツァル王よ、あなたに告げる。国はあなたから取り去られた。あなたは人間の中から追い出され…こうしてあなたの上を七つの時が過ぎ行き、ついにあなたは、いと高き方（神）が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者（最終的には主ご自身）にお与えになることを知るようになる」ダニエル４：３２。

③「私たちは、自分自身を推薦している人たちの中のだれかと、自分を同列に置いたり比較したりしようとは思いません。彼らは自分たちの間で自分自身を量ったり、互いに比較したりしていますが、愚かなことです。私たちは限度を越えて誇りません。神がわたしたちに割り当ててくださった限度の内で、あなたがたのところにまで（主の福音を伝えるために）行ったことについて、私たちは誇る（主を誇る）のです。…私たちは、自分の限度を超えてほかの人の労苦を誇ることはしません。ただ、あなたがたの信仰が成長し、あなたがたの間で私たちの働きが、定められた範囲内で拡大し、あふれるほどになることを望んでいます」Ⅱコリント１０：１２－１５。

④「目が手に向かって『あなたはいらない』と言うことはできないし、頭が足に向かって『あなたがたはいらない」と言うこともできません』Ⅰコリント１２：２１。

⑤「神は高ぶる者に敵対し、へりくだった者に恵みを与える」ヤコブ４：６。

２．健全な考えによるのでない「自己卑下」への戒めのみことば

「私なんか、この教会で必要とされていない。私の存在は他の人に負担を与えるだけだ」という間違った自己卑下をすることがあります。私たちも、身体が弱くなり、これまで出来ていたことが出来なくなる時に、このような思いになります。元気に過ごしていた人が、突然、難病と診断されたり、ある大怪我、事故、病で障がい（専門家の間では、「障害」ではなく「障がい」と表記するようになりました）を持つようになります。自分の存在価値を認めることが難しくなるのです。そんな私たちに、神は愛と優しさをもって語りかけられます。

① 「わたしの目には、あなた（の存在）は高価で尊い。わたしはあなた（の存在、あなた自身）を愛している」イザヤ４３：４。人々がどう評価しようと、神であるわたしの目にあなたは高価で尊い。

② 誤った自己卑下：「たとえ足が『わたしは手ではないから、からだ（キリストのからだなる教会）に属さない（必要とされない）と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけで

はありません。たとい耳が『私は目ではないから、からだ（キリストのからだである教会）に属さない』と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけではありません』Ⅰコリント１２：１５，１６

③ 人を見下げる思い上がり：「目が手に向かって『あなたはいらない』と言うことはできないし、頭が足に向かって『あなたはいらない』と言うこともできません。それどころか、からだ（神が造られた人体、主のからだなる教会）の中ではほかより弱く見える部分が、かえってなくてはならないのです」１２：２２。弱く見える人が、かえって神が造られた世と教会になくてはならない存在です。

④ 『キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られました』ということばは真実であり、そのまま受け入れるに値するものです。私は罪人のかしらです。しかし、私はあわれみを受けました（ユダヤ人も異邦人も）。それは、キリスト・イエスがこの上もない寛容をまず私に示し、私を、ご自分を信じて永遠のいのちを得ることになる人々の先例にするためです」Ⅰテモテ１：１５，１６。応答賛美４５９「主よ、今ここに誓いを立て、しもべとなりて仕えまつる。世にある限り、この心を常に変わらず持たせたまえ」。高慢や自己卑下から守られ思慮深く考え神のしもべとして仕える者にして下さい。